

鯖街道

# 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

福井県速吸郡上中町熊川  
TEL/FAX (0770) 62-0330

**第10号記念号**



中ノ町の町並み (平成16年7月)



整備前の中ノ町 (平成6年頃)



大正時代の熊川  
(写真提供：速見善市氏)



# 熊川宿の町並み



熊川番所



## 上ノ町

平成17年12月  
完成予定



## 中ノ町

平成11年10月  
完成



中条橋



## 下ノ町

平成15年9月  
完成



### 目次

熊川宿の町並み	2
熊川宿の今昔	3
まちづくり活動より	4
発行のご挨拶	5
まちづくりの歩み	6
寄稿文	8
まちづくりフォーラム	10
行事・活動報告・話題	12
作文(文化庁月報より)	14
町並み通信縮刷版	16
町並み通信創刊号	17
町並み通信第二号	20
町並み通信第三号	24
町並み通信第四号	27
町並み通信第五号	30
町並み通信第六号	34
町並み通信第七号	37
町並み通信第八号	41
町並み通信第九号	44
まちづくり憲章	47

# 熊川宿の今昔

いまむかし



早春の町並み



かつて街道を走っていた  
ボンネットバス  
(昭和9年頃)



冬の白石神社



昔の橋町付近 茅葺き家屋が見られます  
(昭和13年頃)



熊川警防団事務所  
現在の熊川児童館の所がありました  
(昭和18年頃)



秋の松木神社



春の宿場館



一峯から望む熊川宿



平成14年



平成13年



昔日の曳き山車 (昭和28年頃)



平成15年



昭和48年頃



昭和54年頃

# 白石神社例祭の移り変わり

まちづくり活動より



白石神社例祭による山車遊行（平成16年5月）



まちづくり総集会（平成15年2月）



京都一乗寺八朔祭参加（平成14年8月）



研修旅行（平成14年9月・白川郷）



飯川宿納涼盆踊り（平成16年8月）



語り部活動（平成12年9月）



飯川いっふく時代村  
「ちようちんみこし祭り歩き」  
（平成14年9月）



蔓細工展示即売（旧徳見勘兵衛家）

飯川いっふく時代村  
「籠屋で」交る in 飯川宿」  
（平成13年10月）



## 『町並み通信』第十号記念号に寄せる

上中町長 津田 雅司

この度、『町並み通信』が、第十号の記念号発刊を迎えられたことに、心から敬意を表する次第です。

過去の通信を拜見しますと、その内容が区民の皆さんに原稿を依頼されることは勿論、更に地元出身者やご指導いただいた先生方など、執筆される方が一部の人に偏ることなく、広く原稿をいただいておりますことを知ることができず。また、出来上がったものを、区民だけではなく、県内外に出られた熊川出身の方、文化庁や全国の伝建地区に送付されていることもお聞きしました。

こんな積極的に開放された、内と外の交流を眼中に入れたまちづくりが、熊川へリターンされる方が現れたり、また「東京熊川会」の発足につながりたりしているのだと思います。そのような意味で、この『町並み通信』の意義は極めて大きいものだと感じます。

そして今年、同じく十回目を迎えました「まちづくりフォーラム」には、遠くヒマラヤ南東部のプータンから四人の方をお迎えしまし

た。熊川を目指して、遠く空の旅を経て来られたのであります。

「世界にひとつ」の試みを追求していくことが、世界的普遍的価値を獲得することの証でしょう。

これからも、より地道におこることなく、日本の富士山より高い世界のヒマラヤを目指して、歩みを進めていただきたいと存じます。

「山上 更に山在り」

## 「10号」と「10回」

上中町教育長 高橋 利男

町並み通信「鯖街道熊川宿」が十号という記念号を迎えられたこと、心からお慶び申し上げます。一口に十号と申しますが、十号という事実は熊川宿を愛する住民のたゆまぬ努力と強い思いを物語っており、関係者のご労苦に対し深く敬意を表したいと思えます。

バックナンバーを読み返してみますと、そ



杉本孝良氏・画

の時々々の課題を的確に押さえ、それに見合った記事構成がなされており、熊川宿のまちづくりに大きな役割を担ってきたことは確かです。まさに「継続は力なり」。今後も細やかな情報発信と意見交換を深める広報誌として充実されますようご期待申し上げます。

一方、恒例の「熊川宿まちづくりフォーラム」もめでたく十回目を迎え、盛大に開かれました。なかでもメインは、プータン王国の方々による「プータン語り」でした。熊川宿と国境を越えた世界的共通課題である「文化財の保存と

活用の取り組み」に関する貴重なご意見を拝聴し、プータン王国からはるばる熊川宿を訪ねてくださったことに深い感動を覚えられた方が多かったですと思います。

太古の昔から日本とアジアとの交流は深いと言われていますが、実感として歴史や文化が似通った点があるという親近感。人種や国籍を越えて友達となり歴史や文化を学び合える喜び。そうした文化交流を積み重ねてお互いの理解を深めていくことは、とても有意義なことだと痛感しました。今回の交流が更に広がることによって熊川宿の活力を少しでも高めることができると考えます。欲を言えば地域との交流のあり方が行政や団体主導から住民主導へ、非日常的なものから日常的なものの交流へ、又、欧米志向からアジアとの交流を重視するという意識や行動が広がりがうかがえるようになれば望外の喜びであります。

今後、歴史と伝統を共有していくことに喜びを求め、「心のまちづくり」が一層重要となるため、誇りを持ちつつ他地区に学んで切磋琢磨し合い、研修にみぎきをかけて素晴らしい熊川宿の景観を支えていく必要性を感じております。

## 町並み通信「鯖街道熊川宿」 第十号刊行に寄せて

熊川区長 山本良市

誰もが自分の生まれ育った所が一番だと思っっている。しかし、他所の方々から素晴らしいと言う評価はなかなか頂けない。我が熊川はほっとする町、やすらぎを与えてくれる所との旅人の評価をやつと得られる様になった。

三十年程前より、古文書、古記録の中から昔日の姿の研究が区民有識者の中から始まり、クローズアップしてみると非常に面白い。何とか具現化出来ないものだろうかとの高まりの中、平成八年には国の指定「水の郷百選」「歴史国道」「重要伝統的建造物群保存地区」の三つを受けるに至り、行政の力をもお借りして、ひとつずつ実現化して参りました。

昨年度は二十一万の方々がお見えになられ、年々増加の傾向で大変嬉しく思っております。

反面駐車場が少ない、トイレが少ない、土産物屋が少ないとのお叱りをよく受けますが、区のコンセプトとして土産物屋さんにはあまり増やさないで住民が中心の集落

です。とお答えしておりますが、考えねばならない時期になっております。

まだまだしなくてはならない事が山積みされておりますが、焦る事なくやすらぎの郷として、緑と川を前面におしだして第二の熊川黄金期を住民、関係者一丸となつて進めたく思っております。

また次代に引き継ぐべき昭和、平成の書き物を同時に行なっていくかねばならない。その一環として、この町並み通信も平成十二年六月より始まっておりますが、住民や各界の先生方にもお力添え頂き今回第十号刊行になりました。

今後とも広く各方面より密度の高いものをお願いし、継続して刊行して下さることを切望すると共に、編集の方々の方々の今までのご苦勞に感謝いたします。



熊川會頭 (熊川いっぶく時代村・平成13年)



町並みライトアップ (熊川いっぶく時代村・平成12年)



山崖から見る街道 (白石神社祭礼・平成15年)

### 若狭鯖街道熊川宿

### まちづくりの歩み

—重要建造物選定から今日まで—

- 平成7年(1995年)
- 1月13日 旧奈良町兵衛家が町指定文化財
- 3月19日 建設省「歴史国道」選定
- 5月3日 白石神社祭礼
- 8月14日 第一回まちづくりフォーラム
- 8月15日 納涼盆踊り
- 9月下旬 重要建造物条例案上程・可決
- 10月22日 まちづくり区民総集會
- 12月26日 熊川宿を町の伝統的建造物群保存地区に決定

- 平成8年(1996年)
- 3月22日 国土庁「水の郷百選」認定
- 5月3日 白石神社祭礼
- 5月15日 「歴史国道」選定認定証授与式
- 6月8日 熊川宿語り部の会発足
- 7月9日 文部省「重要伝統的建造物群保存地区」選定
- 7月23日 重伝建造物選定書伝達式
- 7月28日 重伝建造物選定祝賀提灯行列



トリプル選定を祝って提灯行列が行われました

- 8月14日 第二回まちづくりフォーラム
- 8月15日 納涼盆踊り

## 町並み通信第十号発刊にあたり

若狭熊川宿まちづくり特別委員会 会長 河合 健 一

町並み通信第十号記念号を発行するにあたりご挨拶申し上げます。

今年、まちづくりフォーラムが第十回、町並み通信が第十号、そして私が「若狭熊川宿まちづくり特別委員会」の会長に就任して十年という節目の年となりました。熊川宿は、国、県、そして上中町の絶大なご支援をいただき、また区民の皆様のご理解とご協力をいただきまして、十年前とは比較にならないほど美しく素晴らしい町並みに蘇りました。これ偏に諸先輩方のご尽力とご指導のお陰と感謝しております。

旧逸見勤兵衛家の修景に始まり、道の駅の竣工、中条橋の架け替え、中ノ町、下ノ町の前川改修を伴った町並みの整備が行われ、このほど上ノ町の整備も始まったところ

です。また山車の復活や見送り幕の新調、番所の復元、さらには各家屋の修景など、ひとつひとつ夢が叶ってまいりました。

ソフト面でも、まちづくりフォー

ラムの開催をはじめ、てっせん踊りの復活、語り部の育成、つる細工の実践、いづく時代村の開催、町並み通信の発行、まちづくり憲章の制定など年々充実してまいりました。同時に新たな課題も生まれ続けています。今後は若い世代の方々にも大いに参加していただき、まちづくりに取り組んでいただきたいと思います。

さて、先日のまちづくりフォーラムで、通かヒマラヤ南東部のプータンから、山を越え海を越えて四人の方が来られました。「住民が力を合わせて建造物を保存していく」という共通のテーマにより、文化庁の推薦で熊川宿へ訪れて下さったのです。

若い人たちの文化遺産の保存に対する発表に感銘を受けました。国境を越えて、お互いに学び、交流ができましたことは、私たち地元住民にとりまして有意義なひとときであったと思います。

この町並み通信熊川宿は、「今、

熊川ではこういう活動をしていまずよ」という報告や、住宅を直された方に感想などを書いてもらって、熊川にゆかりのある方や、まちづくりをしておられる所などに配布し、交流を深めています。

今回第十号の発行を迎えることができましたことは、区民の皆様をはじめ、関係各位の温かいご協力があつたからこそと感謝しております。

今後さらなる熊川宿の発展に向けて、まちづくり活動にご協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



重伝建選定当務、夢や希望を記しました

不慮に

新家よごす

つばめかな

つばめ来る

温かき家

感謝する

旅人

- 平成9年(1997年)
- 5月1日 熊川宿資料館「宿場館」竣工
- 5月3日 白石神社祭礼
- 8月14日 第3回まちづくりフォーラム
- 8月15日 納涼盆踊り

- 平成10年(1998年)
- 2月 松木神社手洗舎完成
- 4月上旬 旧逸見勤兵衛家竣工
- 4月25日 元宮さん改築祭
- 5月3日 白石神社祭礼(鳥居新調)
- 7月18日 「熊川宿町並み保存伝統技術研究会」発足
- 8月12日 第4回まちづくりフォーラム
- 8月15日 納涼盆踊り



(前川改修とてっせん踊り復興記念)

- 平成11年(1999年)
- 1月29日 「熊川宿伝統芸能保存会」発足
- 5月1日 「四季彩館」竣工
- 5月3日 白石神社祭礼
- 8月15日 納涼盆踊り
- 8月22日 第5回まちづくりフォーラム
- 10月14日 道の駅「若狭熊川宿」竣工
- 10月14日 中ノ町景観整備完成竣工
- 10月16日～17日 熊川いつ福時代村

(中ノ町景観整備完成記念)



## 熊川の思い出

石倉 シゲ

### 秋立つや往時をしのぶ番所跡

熊川に生まれ、熊川に育ち、そして熊川に嫁いで今年で八十歳。熊川を愛し、熊川に住める事を一番有難く思います。

山あり、川あり、そして人情の豊かな熊川。この度番所も復元され何よりです。子どもの頃より番所〜と言って遊びに行っていたので、カムバックしてうれしいです。

子どもの頃より親しんだ前川の豊かな流れ。今から思い出すのは、夏の炎天に三時頃学校から帰って来ると、シーンと静まり返って焼けつくような道路の熱さ。丁度その頃熊川は養蚕が盛んで蚕に桑をやり、昼寝から起きた家の人達がどここの家でも前川のカワトに立ってかけてある長い柄のついたひしゃくで水を撒きます。一斉に道路に前川の水を撒くのです。

今までの炎天の暑さが一瞬にしてひんやりと涼しくなり、おばさん達がソーレ〜と言って水を撒

く方をピョン〜と飛んでゲームのようにして涼しさを楽しんだものです。

それに夏の夜の涼しい前川。うちわを出してバタ〜と床几での賑わい。

麦わらの長い棒をかついでホタル取りに行く一団、軒並みのお店の裸電球の下で子どもたちの将棋指し等、川辺の涼しさに夜の更けるのも忘れて賑わったものです。

何軒もの問屋さん！幾つもの大きな桶に長い棒で藁をかきまぜてはさらしておられるのをいつも見ておりました。それにローソク屋さんも何軒もありました。友達と一緒にローソクの芯巻きをいつも手伝った事もなつかしく思い出されます。

軒並みの商家！売出しの日の日の繁華なこと。呉服屋さん、魚屋さん、牛肉屋さん、時計屋さん、たどん屋さん、傘屋さん、自転車屋さん等々。いろいろの商売が軒を連ねて賑わっておりました。お通路さん、角刀取りの巡業の群れ。何軒もの宿屋さんがありました。

それに鯖街道小浜より春は春鯖、鯖の子、秋は糠で漬けるヘシコにとどここの家でも一トロや二トロは漬けておられ、魚屋さんの前には

隣の家の前辺りまで開いた魚が干してありました。私たちは鯖で大きくなったようなものでした。

又、田鳥や日向から女の人が朝早くギシ〜と塩魚や干物を荷なつて、四、五人団で熊川へ売りに来られ、どここの家でも麦わらを束にしたツト



束にしたツトに、ソーメンの出しにか？ その干物を串にさしたのが

台所の天井につるしてあり、夏の風物詩でした。

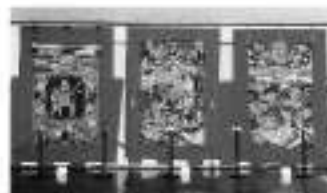
繁華だった熊川！「こめんやす」「おいでやす」ゆったりとのどかな町・熊川。ここに住める私は幸せです。

熊川が国の重要伝統保存地区として認定された事をうれしく誇りに思います。

毎日たくさんの方々が見に来られてうれしいです。山や川、町並みもさる事ながら、ほんわかとした熊川の人の暖かさもそえて。又静かな心の癒しに行こう！と言ふ熊川にしたいと思います。

それも熊川を今日まで築いた先人のご恩に報いる務めだと思えます。

■平成12年(2000年)  
3月21日 見送り幕が県指定有形文化財に認定



5月3日 白石神社祭礼(仮装行列)  
6月8日 町並み通信創刊号発行  
7月 「手づくり郷土賞」受賞  
8月13日 第6回まちづくりフォーラム  
8月15日 納涼盆踊り  
10月13日〜15日 熊川いっぶく時代村(熊屋で)こさる開始・提灯(御製作成)



11月1日 町並み通信第2号発行  
11月3日 山車の復活に向け調査開始  
11月10日 御法寺の松お別れ法要  
12月10日 松木神社石段改修祈願

■平成13年(2001年)

2月18日 まちづくり総集會  
3月10日 町並み通信第3号発行  
4月15日 一筆遊歩道整備完成  
5月3日 白石神社祭礼  
6月下旬 松木神社参道・散策路整備  
6月下旬 御蔵道・西口公園整備



# 熊川宿への想い

清水正敏

「この間熊川宿へ行って来たけれど、なかなか良い所だった。」

「この間テレビで熊川宿が出ていたけれど、良い所に住んでるじゃないか。」

これは、県外に住んでいる（特に京都、大阪方面）私の友人たちの言葉です。熊川宿も住民の皆さんと行政の協力のもと段々と整備され、マスコミや各種の書物に紹介され、知名度も高くなって訪れる人も多くなりました。

二十一世紀に入り技術文明の発展は、パソコンや携帯電話等、私の子供の頃からは想像もつかない物が数多く生みだされ、それに伴い生活が便利になった反面、人の心は荒唐しつつかある様に思えます。そのせいででしょうか、最近では古い物、レトロな物が関心を集めている様です。特に昨今は「昭和」または「昭和以前」の物に人気があり、大分県の豊後高田町の昭和の古い町並みは連日大勢の人が訪れている様です。熊川宿をはじめ、

全国にある古き町並みに人々が訪れるのは、古き物（時代と言って



も良い）への憧れと、行き詰まっていた現在の人の心の癒しを求めていることだと思えます。

私の友人たちはよくこう言います。「熊川宿は観光化されていないのが特に良い。」「山あり、川あり、自然の恵みに包まれてうらやましい。」「人情も素朴で、落ちついた所が良い。」と。

でも、考えて見れば、ほんの三十年前位は、日本全体が世界の人々からそう言われていたんだらうと思うと同時に、月日の流れの中で、失った物があまりにも多かったですと気付かされます。

これからも熊川宿の整備が進み、癒しを求めて訪れる人も増えてくると思えます。けれども、どんな時代になっても、熊川に住む一住人として、熊川宿の伝統、文化、自然、そして人情をいつまでも守り続けてゆきたいと思えます。そして、これらの物を次の若い

世代の人々に（熊川は若い人が少ないのが唯一の欠点）伝えてゆかなければならない義務もあると思えます。

熊川宿の知名度が高くなる程、その責任も大きくなります。

せち辛い現代社会に於て、熊川宿が一服のオアシス（ちよっとオバー？）になる、そんなまちづくりを私も微力ながら一住人として、地区の住民の皆さん、行政の方々とも協力してゆきたいと思えますので、今後共よろしくお願致します。

熊川に生まれて良かったという想いを胸に持って、



7月3日 町並み通信第4号発行  
7月22日 第7回まちづくりフォーラム（選定5周年記念）



8月15日 やくら完成竣工  
8月15日 納涼盆踊り  
10月10日 白石神社参道の灯笼復元  
10月13日 熊川いっふく時代村（巨大提灯・提灯御製作成）  
12月15日 町並み通信第5号発行

■平成14年（2002年）  
5月3日 白石神社祭礼  
5月13日 町並み通信第6号発行  
6月下旬 権現神社修繕完了  
8月15日 納涼盆踊り  
9月28日 熊川いっふく時代村（山車曳き初め・見送り集おひろめ）



10月上旬 松木神社義民館改修  
10月13日 松木神社例祭（三五〇年祭）

# まちづくりフォーラム

①とき ②ところ ③メインテーマ  
※敬称は略させていただきます。

## 第1回 まちづくりフォーラム



- ①平成七年八月十四日
- ②逸見弘子家倉庫
- ③「美しく住みよいまちを自覚して」

- 第一部：基調講演  
「鶴街道熊川宿と東海道関宿」  
岡田集平
- 第二部：パネルディスカッション  
「美しく住みよいまちを自覚して」  
岡田周平・藤井宏・松宮昂・河合健一・福井宇洋

## 第2回 まちづくりフォーラム



- ①平成八年八月十四日
- ②逸見弘子家酒蔵
- ③「熊川宿の元気づくり」

- 第一部：基調講演「全国のまちづくり」  
馬淵公介
- 第二部：アトラクション  
「熊川音頭」入江幾三ほか  
「ピアノと大正琴の共演」  
琴サークル流水
- 第三部：パネルディスカッション  
「熊川宿の元気づくり」  
馬淵公介・米山淳一・岡本健一・入江純子・福井宇洋

## 第3回 まちづくりフォーラム



- ①平成九年八月十四日
- ②逸見弘子家酒蔵
- ③「古きまちに新しく住まう」

- 第一部：基調講演  
「町と人―よみがえりの道」  
姫田忠義
- 第二部：パネルディスカッション  
財満やえ子・今北哲也・石川雅夫・姫田忠義・福井宇洋
- 第三部：アトラクション 記録映画  
「義民松木長縁先生三百年祭」  
記録映画  
「川越の職人 高と左官」

## 第4回 まちづくりフォーラム



- ①平成十年八月十二日
- ②松木神社義民館
- ③「まちづくりの原点」

- 第一部：基調講演「まちづくりの初心」  
小林俊彦
- 第二部：デザイン調査について  
第三部：「熊川音語り」  
川澄ヤス・福井宇洋
- 第四部：パネルディスカッション  
「まちづくりの原点」  
小林俊彦・増子隆子・松木一郎・吉田桂一

## 第5回 まちづくりフォーラム



- ①平成十一年八月二十二日
- ②松木神社義民館
- ③「町格を求めて」

- 第一部：基調講演  
「地方に生きる」  
岡田文淑
- 第二部：熊川の音語り  
「熊川の昔と鐘売りの思い出」  
掛谷信一・永江寿夫
- 第三部：パネルディスカッション  
「町格を求めて」  
岡田文淑・尾中信夫・米田政司・吉田桂一

## 第6回 まちづくりフォーラム



- ①平成十二年八月十三日
- ②松木神社義民館
- ③「熊川からの発信を考える」

- 第一部：基調講演「京の和菓子をくくる」  
高家昌昭
- 第二部：熊川の音語り  
「熊川の思い出」  
宮下市郎・福井宇洋
- 第三部：パネルディスカッション  
「熊川からの発信を考える」  
辻 保宏・高家昌昭・矢野倬之輔・松宮敏彦・吉田桂一

11月6日 町並み通信第7号発行  
11月10日 第8回まちづくりフォーラム

■平成15年(2003年)

2月22日 ひなまつり総集会  
3月下旬 熊川宿伝統芸能教本作成  
5月3日 白石神社祭礼(山車遊行)  
7月1日 町並み通信第8号発行  
8月4日 熊川番所復元完成竣工



9月下旬 下ノ町景観整備完成  
9月27日(28日) 熊川いっぶく時代村  
(町制50周年記念・若狭路  
博2003上ステージ)



10月5日 第9回まちづくりフォーラム  
11月13日 町並み通信第9号発行

■平成16年(2004年)

3月下旬 まちづくり憲章制定  
5月3日 白石神社祭礼  
8月8日 第10回まちづくりフォーラム  
9月中旬 町並み通信第10号記念号発行

※資料は、町並み通信「福場町」、町並み通信「熊川宿」及び上中町教育委員会のご協力をいただきました。  
なお、開催不行届きの所、「」を敬下下さい。

第7回  
まちづくりフォーラム



重伝建・歴史国道・水の郷  
選定5周年記念

- ①平成十三年七月二十二日  
②松木神社義民館

③「熊川に住まうこと」

第一部：基調講演「この形を形にする」  
村田吉弘

第二部：熊川昔語り「魚売りの思い出」  
麻中ヒサ・尾中一枝・福井宇洋

第三部：熊川家語り「町並みにくらすこと」  
藤井美栄子・平尾悦子・吉田桂二

第四部：総括講演「熊川の町並み保存  
に思うこと」  
島田敏男

選定五周年記念イベント  
熊川区民による「もちつき大会」と  
村田先生の「ふるさと料理教室」

第8回  
まちづくりフォーラム



- ①平成十四年十一月十日  
②松木神社義民館

③「新しいまちづくり」

第一部：家直し語り「修理への思い」  
井上守・澤田一夫・福井宇洋

第二部：まちづくり語り  
「まちづくり活動」

高橋こよ・平尾希典・尾中信夫

第三部：総括講演「循環型社会の家づくり・まちづくり・ひとづくり」  
鈴木有

第9回  
まちづくりフォーラム



- ①平成十五年十月五日  
②松木神社義民館

③「私たちのまちづくり」

第一部：先進地語り  
「武生屋の社のまちづくり」  
井上和治

第二部：未来語り「私たちの未来」  
岡本麻理子・小林直美・永平詩織・大庭桂

第三部：講演「助け合いのまちづくり」  
芝田英昭

第10回  
まちづくりフォーラム



第一部：熊川語り「熊川の町並み」  
福井宇洋

「熊川のまちづくりに関わって  
保存と暮らしの中で」  
柴田純男

第二部：ブータン語り「ブータン王国に  
ついて」  
宇野文男

「ブータン王国の歴史・文化・建築」  
Changa Uramo(学生)  
Lhapdu(学生)  
Passang(僧侶)

Nagsho Dorji(ブータン内務文化官)  
高島有美(通訳)

第三部：総括講演「世界にひとつ世界は  
ひとつ」  
西村幸夫

第10回 若狭鯖街道熊川宿まちづくりフォーラム

世界にひとつ 世界はひとつ

熊川・ブータン歴史的建造物保存文化交流

とき：平成16年8月8日  
ところ：松木神社義民館



柴田純男先生  
熊川の風土を知り、住む人の気持ちを汲みながら、建物を壊さずに痕跡を大切に修理してきました。



高島有美さん(通訳)



福井宇洋先生

熊川宿は、前川の流れに沿って造り出された。自然の地形を生かして作られてきた。ブータンも同様に感じます。

ラモさん(中学生・16)  
ブータンは小さな国ですが、森林で、自然・文化遺産が多く、特色があります。国は「Gross National happiness(国民総幸福・GNH)」を推めています。  
美しく素晴らしい文化は、一度壊されると復元が難しい。誇りを持って守り、発展させていくために学んでいきたい。



パサンさん(僧侶・39)  
私の僧院は、山の上に垂直な岩を壁にして建てられています。もうすぐ修業が完成します。  
壁面は仏様のご利益を受けています。建造物には意味と力があり、元々の保存が重要です。若い世代と古い世代が一緒になって伝えていくべきです。

ラプチュさん(高校生・22)  
文化遺産は祖先と今の架け橋で、精神を高める源。「GNH」はみんなが参加して、意味を学ぶべきだと思う。  
価値や保存は地域の方が良く知っている。美しい物は永遠の喜び。心と手をつなげて大切にしていきたい。

宇野文男先生(福井大学教授)  
ブータン王国の正装「ゴ」を着て、歴史や地形、交流の経緯について紹介されました。



ナクツォ・ドルジさん  
ブータンの建造物保護工芸コンテスト三部門の優秀賞受賞者です。文化庁の推薦で「住民が力を合わせて建造物保護をしている熊川宿」に来ました。  
遺産保護の重要性を学び、この素晴らしい経験をブータンに伝えられるよう願っています。

西村幸夫先生

精神の豊かさを大切にした「GNH」は、すごい可能性を秘めた「世界にひとつ」の国です。  
熊川とよく似て、自然が多く建物が調和して、きちんと改善をめざしてきた独自性が「世界はひとつ」と感じます。



11/25

## つる細工の会が町並み研修



大津市坂本に寄り穴太衆(あなうし)の石垣と生垣に囲まれた建物を見た後、嵯峨鳥居本の農家町家、茶店の町並みを見学しました。道が狭いのに人の多いこと！周囲の山林や竹林等自然環境は抜群の京の田舎でした。

12/15

## 文化庁 坊城先生を囲む会



文化庁建造物課の坊城俊成先生が、熊川宿へ初めて来られた感想を「五感で感じられるいい町並みだと思った」と語られました。

今後の修景について「今まで培ったリズムで、普段の暮らしを大切にしながらまちづくりを続けて欲しい」と講演いただきました。

1/25

## 文化財消防訓練



雪化粧した冬晴れの熊川宿で、町並みや文化財を火災から守るための消防訓練が行われました。

自衛消防団や若狭消防署からポンプ車など数台が結集し、幾重もの放水や、機敏な消化活動が展開されました。

2/14

## 西村幸夫先生を囲む会



「人間味あふれたまちづくりと観光の融和をめざし宿場町としてのよい雰囲気を守ってほしい」と昭和六十年代、小学生との共同調査に参加した青年も出席して和やかに聞かれました。

2/21

## まちづくり総集会

高橋利男教育長が「豊かな緑と文化遺産を守りながら、住民が主人公となって、いきいきしたまちづくりをして欲しい」とあいさつされました。語り部の中塚政雄さんは、「愛着ある熊川を売り出した」と、熊川小学校へ勤務されて



れていた頃の思い出と共にお話されました。

教育委員会の永江寿夫氏は、昨秋訪問されたブータンの寺院や民家、自然、生活の様子をスライドで紹介。

「熊川へ来られたら、みんなを迎えて学び合い、夢ある熊川に」と話されました。

## むとう永二郎さん スケッチ画作品展



時…5月1日～5日 於…熊川宿 出俣楽部  
ペン画の作品展が行われました。ゴールデンウィーク中とあって、観光客が体験がてら立ち寄り気に入った絵を買いたい求めています。

## 山内美栄子さん 布あそび作品展



時…5月14日～20日 於…旧逸見勘兵衛家  
パッチワークの作品展が開かれました。壁掛けや敷物、小物の数々はどれも手の込んだ作品で、内外から多くの方が来られました。

## 恩地美佳さんの熊川音頭がCDで発売



熊川いっぶく時代村でもお馴染みとなった恩地美佳さんのオリジナルCD「ひなうたさとうた」が発売されました。美佳さんが唄う軽快な熊川音頭など、民謡15曲が収録されています。



4/25

### 一峯山開きと山道修復作業

雪の影響などで傷んでいた一峯遊歩道の修復作業と山開きが行われました。併せて山車蔵(元熊川保育所)の清掃が行われました。また宿場館前の古井戸を復活しようと井戸水を出してみました。



4/10

### 一乗寺へお花見懇親会

熊川宿伝統芸能保存会は、一般公開されていた京都御所を見学した後、一乗寺郷土芸能保存会と懇親会を行いました。一行は昼食を共にした後、てっせんと一緒に踊り交流を深めました。



4/1

### まちづくり憲章公布

長期にわたって審議検討されてきたまちづくり憲章が定められました。これは六項目の憲章と十項目の申し合せ事項からなり、「みんながよくなるまちづくり」を進めて行くための指針となります。



8/6

### ブータンの人たちを迎え歓迎会

ブータンから来られた四人を迎え、手づくりのおもてなしで和やかに夕食会が開かれました。その後、てっせん踊りと熊川音頭を一緒に踊りました。その覚えの早いこと！浴衣も良く似合っていました。



5/25

### 委員会代表が町並みゼミに出席

今年の町並みゼミは千葉県佐原でありました。佐原は江戸時代中期から昭和前期に利根川流域の舟運と周辺穀倉地帯の物資の集散基地で繁栄した町です。こうした都市の姿を今に残している重伝建選定地区です。



5/3

### 白石神社例祭で曳き山車巡行

今年も白石神社の祭礼で曳き山車が行われました。従来のお神輿とお囃子に山車加わったことで、見えのある祭りとなっています。みんなでこの祭りを盛り上げ、末永く守り続けてゆきたいものです。



8/15

### 納涼盆踊り

恒例の盆踊りが開かれ、流行踊り、てっせん踊り、熊川音頭を大人から子どもまで一緒に楽しみました。バザーも大変賑わっていました。



### 手書き看板で安全運転を啓発

熊川宿の街道をスピードを出して走る車をよく見かけます。運転者に安全な走行を守っていただくため、やさしい運転をお願いする看板を経費をけけずに作りました。字は山本区長にお願いし旧逸見家前など数箇所に取り付けました。



### 丸田さん(元熊川交番)の手造り看板が大好評!

「近所の奥さんから聞いた最高のケヤキの板に、丸田さんが苦心して彫って下さった看板が好評です。看板の屋号を見て話題ができ、お客様との会話が弾みます。熊川宿では他にも数個活躍しています。」

## 私の大好きな熊川宿

永 平 詩 織

熊川宿の家は、ほとんどの家が古くは四十年前くらいたつているのですが、熊川宿の中には百年くらいたつている家もあるそうです。

熊川は、古い建物だけではなく豊かな自然があります。だから季節によって楽しみがたくさんあります。

春。桜が満開のとき、松ノ木神社で友だちといっしょに竹の子取りに行きました。そして、家へ持ち帰ったらおばあちゃん、お母さんが竹の子の料理を作ってくれました。

夏。友だちと前川に足や手を入れたりして気持ちいいです。前川にはぐるぐる回る小さな水車みたいなものがあります。それは「いもあらい」といいます。さといもをそのいもあらいの中に入れて、川の流れる力がかかわるのです。昔の人は、よくそんなことを考えついていたのだと思いました。朝早く母と姉の三人でだれも歩いていない熊川



※この作文は「文化庁月報」子どもたちから見た伝建保存地区」（平成十四年九月号）に掲載されたものです。

宿を歩いたことがあります。夏なのに、朝はとてもすずしかったです。人もいなくて静かで、昼間の熊川とはなんかちがって見えしました。私は熊川宿をひとりじめできたような、ぜいたくな気分でした。観光客の方たちは味わったことがないだろうと思います。

秋。熊川いっぶく時代村という秋祭りが行われます。中でも、「かご屋でござるイン熊川宿」というイベントは、熊川宿の町並みの中でかごを使う「珍レース」です。ちなみに去年は、熊川小学校の先生たちが江戸時代のかっこうで参加して三位になりました。

冬。最近では十二月でも、観光客が訪れる熊川宿となりました。たくさん雪がつもります。それでも前川の水は流れていきます。よその観光地のようにお店はたくさんないけれど、私はこんな熊川宿が大好きです。

## 初夏の熊川宿

—心やすらぐ住空間のなかで—

松 見 正 幸

日曜日の昼下がり、観光客に混じってカメラを掲げて歩いていると、店先のおばちゃんが声を掛けて下さいます。

「ええのが撮れますかあ？」

「なかなか気に入ったのが撮れませんが」

望みが高いのか、腕が悪いのか。澄みきった青空に緑豊かな山々、セピア調の町並み、白壁の土蔵。被写体は素晴らしいのになかなか思うように撮れません。

ここは鯖街道熊川宿。かつて若狭小浜から京都へ鯖をばしめとする多くの海産物や物資が運ばれた宿場町です。

町並み保存の話がもち上がったのが、過疎化が進んでいた昭和五〇年頃ですからかれこれ三〇年になろうとしています。

当時は、「こんな田舎町が本当に良くなるのだろうか？」「どんな町並みになるのだろうか？」「観光客は来てくれるのだろうか？」といった不安や疑問がありました。

そして時は流れて、多くの先人たちや関係者の多大なご努力によ

り、町並みの整備が始まりました。

平成八年には国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

また建設省「歴史街道」の選定、国土庁「水の郷百選」の認定も受け、この頃より急速に町並みの整備や家屋の修業が進みました。

中条橋が架け替わり、中ノ町からは電柱や電線が無くなりました。広くひらけた街道は、私たちが子どもの頃から



の頃から見慣れてきた熊川とは違つたどこか別の町に

来たような、新鮮でいて懐かしい、そんな気がしました。

観光客の方々も「静かで落ち着きますね」「時間がゆっくり流れている感じがします」と言ってくれます。手前味噌かも知れませんが、穏やかで居心地のいい、こんな熊川宿がとて愛おしく思えるのです。

熊川宿には四季それぞれその季節ならではの風景がありますが、山や

町並みの木々が新緑であふれる初夏が私はいちばん好きです。

白石神社の祭礼が行われる五月三日は子どもの頃からとても楽しみな一日でした。

その日は、朝、親から小遣いを貰い神社へ急ぎました。肝心のお参りもそこそこには実は露店へ行くのが目的だったのです。おもちゃや爆竹などを買って遊びに夢中でした。

お神輿や祭り囃子は過疎化と少子化の影響で、一時途絶えかけた時期もありましたが、近年「熊川宿伝統芸能保存会」が中心となって子どもたちに受け継がれようとしています。

かつて祭り囃子を載せて区内を運行したといわれる山車が約四〇年ぶりに復元されました。山車の後ろに吊るす見送り幕も新調され、完成したばかりの山車に載って、お囃子を奏でる子どもたちを見ると心が和みます。山車の曳き手はもちろん住民で、若いも若きも笑顔がこぼれます。夜は各家の門口に提灯の灯りが点り、一層情緒ある町並みが見られます。

蝉時雨が耳に心地よい夏、子どもたちは前川に手足をつけて遊びます。夏の風物詩である盆踊りも大好きな行事のひとつです。夕暮れ時、唄

や音頭が聴こえてくると、いてもたってもいられません。

江州音頭（江州音頭）が変化したと思われる「熊川音頭」は、誰もがよく知っていて昔から踊られてきました。近所でも、にわか盆踊りが開かれたりします。

京都の「一乗寺郷土芸能保存会」のご指導で約八〇年ぶりに復活した「てっせん踊り」は、鳴り物を一切使わない箠かきでゆったりとした唄と踊りです。昔、京都から鯖街道をたどって熊川にも伝わり、大正時代まで踊られていたそうです。永年の時を超えて、今、この熊川宿に見事に蘇ったのです。

また、熊川では日頃「こめんやす」といってやす」といった京言葉を使

います。のんびりしていてやさしさを感じられます。

若狭から京の都へ物資が運ばれたように、都からは言葉や文化が伝わったのです。そしてそれらが熊川古来の伝統と融和し、大切に守り継がれて今日の熊川宿があるのだなあと思えます。

さらに現在、「みんながよくなるまちづくり」をコンセプトに、住まいや暮らしを犠牲にしない住民主体のまちづくりが進められています。



夏・中ノ町の町並み



山車を曳く人々



熊川宿涼盆踊り

ホームページ  
「さんさく 鯖街道 in WAKASA」  
<http://www.hokuriku.ne.jp/matsumi/>



※この作文は「文化庁月報―重伝建を見守る人々―伝建歳時記―」（平成十六年五月号）に掲載されたものです。

こんな自然が豊かで歴史的な熊川宿、まちづくりで元氣を取り戻した熊川宿を、私は今、全国に発信しています。

私がホームページを始めたのは、熊川宿が重伝建地区に選定されて日もまだ浅い平成九年の春でした。以来、熊川宿の近況や見どころ、風景写真などを掲載して七年、今では多い時はひと月に約七〇〇件のアクセスがあります。ホームページから散策マップをプリントして、速くは北海道から来られた方もいます。

また平成一三年度より「若狭熊川宿まちづくり特別委員会」に入らせていただき、町並みに一層興味が持てるようになりました。兄と共に熊川宿の広報紙「町並み通信」の編集にも携わらせていただいています。

熊川宿の家々が仲良く建ち並んでいるように、みんなが共に仲良く、趣味や特技を活かし楽しみながらまちづくりが行われ、ますます魅力ある熊川宿になっていくよう願っています。

# 町並み通信縮刷版

町並み通信発行の歩み

◎平成6年6月～平成10年8月まで発行されていた町並み通信「宿場町」町並み通信「熊川宿」の前身とも言える町並み通信「宿場町」が、約4年間発行されていました。当時ご尽力いただいた諸先輩方や関係各位に敬意を表するとともに、ほんの一部を紹介させていただきました。重伝建選定に向けての調査や準備、選定当初のまちづくり活動、修景事業の様子が伝わってきます。



予告

**国民文化祭・ふくいプレフェスティバル**

熊川いっぷく時代村

とき：平成16年10月31日(日) 午前8時30分～

ところ：福井県上中町熊川宿・道の駅「若狭熊川宿」

主催：第20回国民文化祭上中町実行委員会・熊川区

お問い合わせ：第20回国民文化祭上中町実行委員会

〒912-1582 福井県美加郡上中町町場20-17  
上中町教育委員会 TEL (0777) 82-2711

※イベントの時間や内容が諸事情により変更になる場合があります。

大賑わい  
郷土料理の試食  
舞台作品展示  
山車運行  
いっぷく処  
アリの金魚レース  
フォトコンテスト

## 編集後記

猛暑、福井素市、幾つもの台風の通過と異常気象に悩まされながらも、熊川宿は穏やかな秋の風景を見せています。

先日のまちづくりフォーラムで、ブータンから四人の方が来られました。国や文化、環境は違っても、歴史的建造物を保存していくという同じテーマを持った若い人たちの熱意に感動しました。

今回町並み通信「鯖街道熊川宿」は、第十号の記念号を発行することになりました。

熊川の懐かしい写真や、重伝建選定から九年となるまちづくりの歩み、これまで発行されてきた町並み通信の縮刷版を掲載して、まちづくりの記録の集大成となりました。

ここまで続けてこられましたのは、快く原稿を寄せて下さいました区民の皆様をはじめとする関係各位のご協力の賜と心より感謝しております。

また今回の記念号発行にあたり、資料や写真を提供して下さいました方々、提供にご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

編集委員

写真提供：遠見啓市様・清水純治様

荻野利子様・宮本哲夫様

上中町教育委員会様

まちづくり特別委員会



## 若狭熊川宿まちづくり憲章

江戸時代からの伝統的な面影を今にとどめる若狭熊川宿「熊川宿」は、「町並みを活かしたまちづくり」に住民の気持ちが一つとなったことから、平成八年に文部省「重要伝統的建造物保存地区」建設省「歴史風土」の認定、国土庁「水の郷」の認定を受け、わが国を代表する歴史街道となりました。

私たちは、先人から受け継いだ大切な伝統的町並みを共有財産と看做し、この自然・風土から生まれた本流民家の良さを体感しながら、自主的で継続可能な「みんながよくなる」まちづくりを進めていくため、若狭熊川宿まちづくり憲章を定めます。

一、鯖街道熊川宿の伝統的な町並みと、豊かで清らかな前川の流れを守ります。

二、私たちの暮らしの場であることを基本にして、美しく住みよいまちづくりを努めます。

三、私たちは、お互いに助け合いながら、一層仲よく心のふれあいまちづくり活動をを行います。

四、未来を担う子どもたちが、郷土を愛し、豊かな人間として成長するように努めます。

五、お年寄りから、熊川の歴史や生きる知恵を学びます。

六、熊川の歴史や暮らしに共感して訪れてくださる人々を、こころよく迎えます。

以上

二〇〇四年三月吉日

熊川区  
若狭熊川宿まちづくり特別委員会



## 若狭熊川宿の自立したまちづくりを進めていくための申合せ事項

一、熊川を一つの共同体と看做し、「みんながよくなる」ことを目的とした「まちづくり」を積極的に進めていく。

二、道路や前川を常時きれいに清掃し、美しい町並みと流れを守る。

三、歴史的な町並みの景観を損なうような色彩や形の看板や建物は建てない。販売は対面販売を原則とし、自動販売機などを設ける場合は景観に配慮した工夫をする。

四、所有者との話し合いが成立したら、空き家は通風換気をし、空き地についても清掃対策などを行って、みんなで管理をしていく。

五、保存地区において、建築物、工作物、環境物件や土地等の現状変更をする場合、および次の事項については、まちづくり特別委員会に相談して進める。

(一) 建物や土地を売ったり賃したりする話があったとき。

(二) 土地の用途を変更するとき。

(三) 新しく商売を始めるとき。

(四) 空き家、空き地を活用するとき。

六、熊川宿の歴史的景観による収益は、地元住民に還元されるように進める。

七、宿場内を走る車両は、ゆっくり安全に走行する。

八、氏家前や前川の橋上、路上駐車は極力避けて、集合駐車場を設営していく。

九、火災を起こさないように、伝統ある夜事を続けていく。また、台風、大雪など自然災害には、お互いに助け合っていく。

十、その他、問題が生じた場合は、まちづくり特別委員会に相談して進める。

二〇〇四年三月吉日

以上

熊川区  
若狭熊川宿まちづくり特別委員会



